

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|-----------------------|--------------------------------|-----------------------------|
| 課題番号 | 25220001 | 研究期間 | 平成 25 年度～平成 29 年度 |
| 研究課題名 | 計算代数統計による統計と関連数学領域の革新 | 研究代表者 (所属・職) (平成28年3月現在) | 竹村 彰通（東京大学・大学院情報理工学系研究科・教授） |

【平成 28 年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | | 評価基準 |
|---|----|---|
| ○ | A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| | A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | A- | 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| | B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| <p>(意見等)</p> <p>本研究は、計算代数統計分野の発展を加速させ、数理統計学全般を代数的手法によって変革するとともに、統計学から提示される諸問題の研究により、可換環論や D 加群理論などの関連する数学領域の変革も目指してきた。その結果、統計学と数学の双方で当初計画以上の成果が得られつつある。特にホロミック勾配法を中心とした研究が進み、統計学の標本分布論など基礎的な分野だけでなく、無線通信分野の成果も得られた。</p> <p>これらの成果は多くの論文や国際研究集会等で発表され、研究代表者が日本数学会 2015 年度解析学賞を受賞するなど、国内外から高く評価されている。</p> | | |